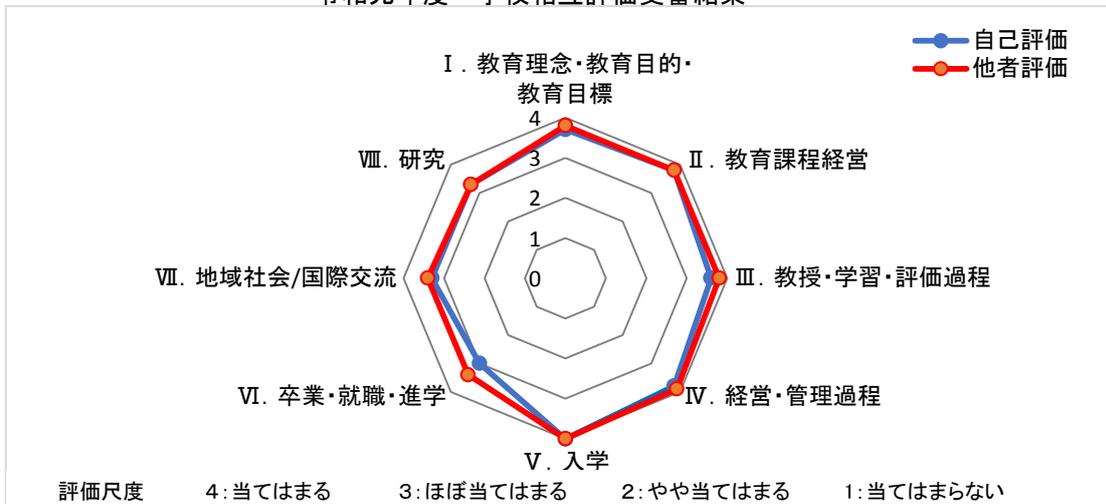


令和元年度 学校相互評価実施

日 時： 令和元年11月29日(金)

評価委員： 中国四国地区の独立行政法人国立病院機構附属看護（助産）学校の副学校長・教育主事4名と国立病院機構外の看護専門学校の副学校長1名の合計5名

令和元年度 学校相互評価受審結果



【総評】

全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会中国四国支部が定める看護師等養成所の学校相互評価実施要領に基づき、書類審査とヒアリングにてNHO高知病院附属看護学校の学校相互評価を実施した。全領域（129項目）の評価は、「4：当てはまる」100項目（77.5%）、「3：ほぼ当てはまる」29項目（22.5%）、「2：やや当てはまる」0項目（0%）、「1：当てはまらない」0項目（0%）であった。学校相互評価の目的に則り、前回平成28年度を受審結果から明らかになった自養成所の課題に対して計画的に改善に取り組み、教育水準の維持・向上に学校職員が一丸となって努力された成果が十分にあった。特に教育課程経営では、変更申請を行い英語の1単位を削除、定期的なルーブリック評価の見直し検討会の開催等、教育課程編成の考え方や構成、教育課程評価の体系化において充実がはかられている。その過程には相当の時間を費やしたと推測されるが、教員の意識統一や風土作りにつながっていると思われる。また、災害への備えに関して、防災訓練や備蓄、防災教育等が充実している。学生にとって安全に学べる学習環境作りは、模範となる取り組みであると考えられる。教員へのヒアリングにおいても、各教員が明確な考えを持っており、一貫性のある説明からも意識統一がなされていることが伝わってきた。個々の教員がそれぞれの役割を認識し責任をもって職務に従事していることが窺えた。評価については、全般的に厳しい視点で評価されており、自養成所の評価において妥協しないという学校職員全員の意識を感じた。近年、学生確保、質の担保が困難となってきたり、学校運営に関する検討も必要となってくると思われるが、これまで同様に教育の主軸となる教授・学習評価過程をさらに見直し、新たな課題に取り組まれることにより教育水準の維持・向上に尽力いただきたい。

【領域毎評価】

評価項目		自己評価	他者評価
1	教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	3	3
2	教育理念・教育目的は、法との整合性がある。	4	4
3	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。	4	4
4	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。	3	3

I 教育理念・教育目的・教育目標	5	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するためにどのような教育内容を設定しているかを述べている。	3	3	
	6	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法(教育環境を含む)をとるのかを述べている。	4	4	
	7	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。	4	4	
	8	教育理念・教育目的は実際に教師の教育活動の指針となっている。	4	4	
	9	教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。	4	4	
	10	卒業時点にもつべき資質は、社会のニーズを踏まえ社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3	3	
	11	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	4	4	
	12	教育目標は、到達できる教育内容になっている。	4	4	
	13	教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読み取れるものとなっている。	4	4	
	14	教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている。	3	4	
	15	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。	4	4	
	16	卒業後の継続教育を踏まえて、教育目標を設定している。	4	4	
	総評	教育理念について一般的で抽象的な文言であり学校の特徴を表現しきれていないことを課題と捉え、カリキュラム改正に合わせて現状分析をしたうえで、改正の趣旨を踏まえて見直し計画を立てられており、計画的に実施されるものと期待する。平成28年度より導入したルーブリック評価の見直し検討会を定期的に行っており、教員にとって教育活動の指針となっていることを高く評価したい。また、教育方針を示すという課題についても早急に取り組みられ平成29年度より学生便覧に記載し、カリキュラム評価も高くなっていると評価する。そして、社会の変化に対応させた内容の追加等、新たな課題への取り組み計画を立て、計画的に改善を進められていることを評価する。カリキュラム改正において看護師教育の基本的考え方で示された7つの能力とディプロマポリシーの示し方を検討課題としているが、現行の教育目標を評価すると具体的で実現可能なものとなっていると考える。			
	〈教育課程経営者の活動〉				
		17	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。	4	4
		18	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。	4	4
〈教育課程編成の考え方とその具体的な構成〉					
	19	教育内容は法令との整合性がある。	4	4	
	20	教育内容は教育目標に到達できる内容になっている。	4	4	
	21	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	4	4	
	22	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	3	3	
	23	学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。	4	4	
〈科目、単元構成〉					
	24	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。	3	3	
	25	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。	3	3	
	26	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。	4	4	
	27	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である。	4	4	
	28	構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。	4	4	
〈教育計画〉					
	29	単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。	4	4	
	30	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。	4	4	
	31	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。	3	4	
〈教育課程評価の体系〉					
	32	単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	4	4	
	33	単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である。	4	4	
	34	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	4	4	
	35	教育課程を評価する体系を整えている。	4	4	
	36	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	4	3	
〈教員の教育・研究活動の充実〉					
II 教育課程経営	37	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。	3	4	
	38	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	3	3	
	39	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	4	4	
	40	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	4	4	
	〈学生の看護実践体験の保障〉				
		41	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。	4	4
		42	臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	4	4

	43	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	4	4
	44	臨地実習指導における学生の学びを保障するために教員の役割を明確にしている。	4	4
	45	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	4	4
	46	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	4	4
	47	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	4	4
	48	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	4	4
	49	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	4	4
総評		<p>良好な職員の間関係性において各学年間の調整が行われていることを確認できた。今後は教育の質の保証や教員の育成という点で、各学年の情報を調整するシステムを構築し現状に合わせた方法で組織化することを期待する。前回の受審後、平成 30 年度には英語 1 単位を削減し変更申請を行い、よりよい教育の向上に努めている。演習を強化していることはカリキュラム改正に向けた積極的取り組みと評価できる。毎年シラバスを評価し、学習内容の偏りを検討し学習効果が向上するよう取り組み、科目配列について課題も明確にしている。授業評価と実習評価を見直し、PDCAサイクルによる改善がみられる。看護技術教育は、校内実習の評価表を新規に作成し教員の教育力向上を図っている。また、ルーブリック評価導入に向け教員間で十分（1回/週）検討したプロセスが教員の意識統一と働きやすい風土作りに繋がっている。授業評価の結果は学生にフィードバックしていることが、学生の学習者として参画する姿勢を養うことにもなるが、授業評価実施規程の策定が望まれる。教員の専門領域外においては、前任者からの情報提供や教員間で相談する環境が整っており、教育内容に不足がないよう教育が実施されている。母体病院の会議や委員会参加もキャリア育成という観点からも重要である。母体病院と連携を取り、意識的に取り組むことを期待する。平成 29 年度からのルーブリック評価の導入とリフレクションノート使用への変更には臨床との連携が必須であり、その調整・検討の努力には敬意を表す。今後、学生が看護の喜びを実感しながら看護を学び続けられる教育方法として発信していただきたい。また、学生の学びの過程をみると、1 年次から看護技術教育においても自己学習ノートを活用し一貫した教育となっている。領域・科目間での統一が、学生の混乱を起こさず、主体的学習の基盤作りにつながっている。看護の統合実習と医療安全演習については学生の意見聴取時に「統合実習に必死で事故防止の内容とリンクしなかった」との意見も聴かれたことから、今後 さらに演習が活かされるように改善されることを期待したい。</p>		
	50	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生の学習成果を考慮して科目が配置されている。	4	4
	51	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。	3	3
	52	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。	4	4
	53	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。	4	4
	54	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。	3	3
		〈授業の展開過程〉		
	55	授業形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容に応じて選択している。	4	4
	56	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。	3	3
	57	授業の展開過程の他に、学生の実習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。	3	4
	58	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。	4	4
		〈目標達成の評価とフィードバック〉		
	59	評価計画を立案し、実施している。	4	4
	60	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。	3	3
	61	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。	4	4
	62	科目目標の達成状況を多面的に把握している。	4	4
	63	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。	4	4
	64	単位認定の評価には公平性が保たれている。	4	4
		〈学習への動機づけと支援〉		
	65	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。	4	4
	66	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。	3	4
総評		<p>平成 28 年度受審時の重点課題に対して、カリキュラム担当者を中心に教員全員で継続的に取り組み、改善がなされている成果が伺える。教育理念・教育目的・教育目標との一貫性、整合性を高めるため、各講師にも働きかけ連携を図り、より良い教育に向けての積極的取り組みは高く評価できる。シラバスにおける教育内容の見直しについては、国家試験の出題基準との照合もされているため、そのことが明文化されることで、学生自身が国家試験を意識して学習に取り組む一助になると思われる。またシラバスには授業科目だけでなく、実習科目も含めて学習目標と授業計画、授業内容を示していく必要があるため加えて検討いただきたい。学習者に合わせた教育内容の配列や順序性についても検討されており、授業や演習における指導方法についても一部 iPad を取り入れるなど、学生の強みを生かした取り組みがなされている。それをシラバスに示せば、より学生の授業科目への関心を高めることができると考えられる。授業評価、実習評価については、そのフィードバックのあり方も含めて課題を明確にされているので、引き続き検討いただきたい。多様な評価方法としてルーブリック評価は臨地実習だけでなく、講義にも積極的に取り入れている。実施評価を繰り返しながら、継続的に取り組んだ経緯がきちんと示されており、その努力が伺えるものであった。学習への動機づけや支援については、書類に示されていることと教員の口頭での審査は一致しており、学生に対する教育の考え方や支援のあり方は一貫していると評価できる。学生への口頭審査では、学習上で困った時や不明な点がある時は、シラバスや学生便覧を活用しているとの返答があり、教員の指導の成果は定着傾向にあることが伺える。</p>		

	〈設置者の意思・指針〉		
	67 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。	4	4
	68 養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。	4	4
	69 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。	4	4
	70 明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。	4	4
	71 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。	4	4
	〈組織体制〉		
	72 養成所の組織体制は、教育理念・教育目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。	4	4
	73 意思決定システムが明確になっている。	4	4
	74 意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。	3	3
	75 意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。	4	4
	76 組織の構成と教職員の任用についての考え方は、教育理念・教育目的達成との整合性がある。	4	4
	77 教職員の資質の向上についての考え方と対策は教育理念・教育目的達成との整合性がある。	4	4
	〈財政基盤〉		
	78 財政基盤を確保することについての考え方が明確である。	4	4
	79 財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。	4	4
	80 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。	4	4
	81 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。	4	4
	〈施設設備の整備〉		
	82 学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。	4	4
	83 管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。	4	4
	84 看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。	4	4
	85 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。	4	4
	86 養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設設備の整備を検討している。	3	4
	87 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。	4	4
	88 火災及び自然災害に対する体制を整えている。	3	4
	〈学生生活の支援〉		
	89 学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。	4	4
	90 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。	4	4
	91 支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。	4	4
	92 学生の安全の確保、個人情報の保護のための体制が整えられている。	4	4
	〈養成所に関する情報提供〉		
	93 教育・学習活動に関する情報提供を関係者（保護者等）に行っている。	4	4
	94 関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。	4	4
	95 看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている。	4	4
	96 広報の内容は、社会的説明責任を果たすものとなっている。	4	4
	〈養成所の運営計画と将来構想〉		
	97 養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。	4	4
	98 その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。	3	3
	〈自己点検・自己評価体制〉		
	99 自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	4	4
	100 実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。	4	4
	101 自己点検・自己評価体制を整え、運用している。	3	4
	102 自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。	4	4
	103 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。	3	4
	104 自己点検・自己評価の結果を公表している。	4	4

	総評	<p>学校運営会議、教員会議等で学校運営方針等が示され、継続的に財政基盤の確保にも努めている。教員個々も学校運営方針の評価を行い、課題を明確にし職員全体で学校運営が行えている。組織体制は整備され、意思決定システムは明確で諸会議規程に沿って行われており、より質の高い教育と安定した学校運営のための議論がなされている。講師会議の課題はカリキュラム改正を機会に取り組みられることを期待する。教員が学生確保のための努力を惜しまず取り組んでいることは高く評価できる。また教職員だけでなく、学生達が主体的により良い学校づくりのためのQC活動に取り組んでいることは、今後地域に向けて発信することで、学生確保や学校の存在価値を高める大きな力になると期待する。教職員の時間管理意識を高め、時間外勤務を適正に自己管理できるよう指導されており、教員への意見聴取では「時間管理の意識が変化し時間の使い方に注意している」とのことであった。設設備の整備は計画的で、学生が安全に効果的に学べる学習環境作りに努めている。防災管理規定や防災マニュアルが整備され、防災訓練、防災マップの作成、高知市の防災対策講演の企画などを通して、積極的に防災教育の強化に取り組んでいる。各学年に防災担当をおき、起こり得る災害に向けた様々な訓練が学生主体で実施できており、学生実費で備蓄を準備していることは災害に強い学校運営として模範となる取り組みであると評価できる。奨学金貸与や高等教育負担軽減新制度についても申請し認可を得て、経済的支援をしている。また、保護者との連絡を密にとり、理解・協力を得られている。HPの充実を引き続き努力し改善されることを期待する自己点検・自己評価、学校相互評価は、本協議会主催のものを受審し、重点目標に組み込み改善に向けて努力されている。特に、教員全員が課題を検討しており、評価・改善するPDCAサイクルが定着している。ルーブリックについても毎週検討会議を開催し、継続して評価・改善がなされており、学生への教育の検討につながっている。NHO就職率はNHO本部が示す70%の到達は厳しい状況があり、高知県にNHO施設が1施設しかないことも考えると非常に難しい問題ではあるが、NHO養成所に求められている機構病院への貢献度などの課題については自己評価自己点検を継続しながら、今後も引き続き取り組んでいただきたい。</p>		
V 入学	105	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	4	4
	106	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性および教育効果の視点から分析し、検証している。	4	4
	総評	<p>受験生確保については年々難しい状況の中、受験生の動向を見据えて入学者選考方法を変更している。状況判断や柔軟性を問う面接方法については、質の高い入学生確保に向けた取り組みにおいて、どのような効果があったのか継続的に分析し評価し、さらなる改善につなげていただきたい。</p>		
VI 卒業・就職・進学	107	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	3	3
	108	卒業時の到達状況を分析している。	3	4
	109	卒業生の就業・進学状況・国家試験合格状況を分析している。	4	4
	110	卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目的・教育目標との整合性がある。	3	3
	111	卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。	3	3
	112	卒業生の就業先での情報を把握し、問題を明確にしている。	2	4
	113	卒業生の到達状況・就業・進学状況の分析結果を就職・進学指導に活用している。	3	3
	114	卒業生への支援体制を整えている。	3	3
	総評	<p>卒業生の就業・進学状況・国家試験合格状況の分析以外は、自己評価が『3』もしくは『2』であるが、実際には、卒業時・就職・進学の評価、卒業生の到達状況・進学状況の分析結果を就職・進学指導に活用している等に関して、計画的に取り組んでいる。特に、今年度はルーブリック評価方法で学習した卒業生が就職した1年目でもあり、自施設のみならず、県内の他の病院へ就職した卒業生へも個別に面談するなど計画的に関わっている。母体病院の看護教育委員会等にも委員として参画し、基礎教育と継続教育への懸け橋的役割を担っている。現在行っている様々な活動が、各々の効果になっているということを意識的に行うことが重要であり、それを学校運営目標等に掲げ取り組むことで、教員の意識化へ繋がると考える。</p>		
VII 地域社会 / 国際交流	〈地域社会〉			
	115	地域社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	3	3
	116	看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている。	3	3
	117	学生のボランティア活動を支援している。	4	4
	118	養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。	4	4
	119	養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。	4	4
	120	養成所が設置されている地域の諸資源を把握している。	3	3
	121	地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。	4	4
	〈国際交流〉			
	122	国際的視野を広げるための教育内容を設定している。	3	3
	123	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。	3	3
	124	海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。	2	3
	125	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。	3	3

	総評	学校側から発信する看学祭やオープンスクール の企画・運営のみならず、地域から依頼されたボランティアに関して、参加できるような仕組みづくりが課題ではあるが、新カリキュラムに向けて、看護学校がこの地域にある意味を見出し、科目と関連させ、学生の動機づけに繋がるよう検討していただきたい。国際交流について「海外からの帰国学生や留学生 の受け入れ体制を整えている」に関しては、国立病院機構の看護学校で求められる整備を学則で定めており、今後検討する視点も明確になっているため、評価を『2』から『3』とする。		
VII 研究	126	教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している。	3	3
	127	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。	3	3
	128	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。	4	4
	129	研究の成果を発表している。	3	3
	総評	お互い研究時間の確保がしやすい環境にあることは教員の聞き取りで明らかであり、ソフト面（教員間の人間関係性）での充実により、円滑な教育実践活動に繋がっていることが分かる。職場風土が良好なことにより概ね必要時に研究時間がとれている。働き方改革を鑑みると、研究も業務の一環という方向性で取り扱われている状況もあり、現状（研究しやすい環境）を継続できるためには、システムの構築が重要と考えるため検討していただきたい。		